

平成29年度「京カグランプリ」発表事例一覧

	所属名	事例名（取組概要）
1	山城広域振興局 山城南保健所	山城南保健所発信「健康意識の向上に向けた取組み」～私もあなたも元気になりましょう～ ○保健所の特徴を生かし、「健康意識の向上に向けた取組み」の取組を実施。肩こり・腰痛予防のため人間工学に基づく自分サイズの椅子を測定。 ○所長（医師）の月一健康講座で、自分自身の生活習慣を見直し、健康診断や人間ドックの結果を意識できるように。また、府民に向けて講座内容をホームページで発信。
2	南丹広域振興局 健康福祉部環境衛生室	地域の環境を守り育てるICT活用プロジェクト～若手職員による子どもへのアプローチと自らの意識変革～ ○現場業務へのタブレット導入により危機管理などの場面で業務が改善し、職員の働き方改革に繋がった。 ○自分達の経験を通じて、次代を担う子ども達に地域の環境の素晴らしさを伝えるために一人一台のタブレットを使ったフィールド体験型環境教育（全国トップレベルのモデル授業）を小学校で実施し、次代の子ども達の環境への意識を向上。
3	中丹広域振興局 農林商工部企画調整室 中丹東・西農業改良普及センター	茶どころ中丹雪害対策プロジェクト ○中丹茶は全国茶品評会で9年連続かぶせ茶部門の産地賞（日本一）を受賞していたが、29年1月の大雪被害により品質低下の危機に直面。災害ボランティアや全茶園を対象とする災害対策事業の活用などに取り組み。 ○関係機関の役割分担と、一番茶販売単価の維持という共通目標を明確にし、10年連続産地賞獲得、中丹茶の高品質評価を維持。
4	丹後広域振興局 企画振興室 教育庁 丹後教育局	若い力を伸ばし活かす地域・職場づくり ○27年度「京カグランプリ」で最優秀賞を受賞した「阿蘇海環境づくり活動」を発展。国際ボランティア学生協会と丹後広域振興局では初めてとなる包括連携協定を締結し、海岸清掃活動等に着手。 ○子どもたちのふるさとへの愛着心を醸成するための教育局と連携した取組（「TANGO魅力伝え隊」等）や、振興局組織の活性化のため「丹後塾」等を開催。
5	職員長G 職員総務課 人事課	日本一美しい職員録の作成 ○校正作業の点検方法を再整理。短期間で正確なコンテンツの作成が可能に。 ○表紙に主要施策となるテーマの写真（海、森、お茶の京都等）を採用し、裏表紙には広告欄により収入確保。職員録の広報媒体としての可能性に着目し、他府県に例のない美しさと実用性を実現。
6	総務部 自転車競技事務所（向日町競輪場） 総務調整課	官民協働で取り組む向日町競輪活性化プロジェクト ○安定した経営体制を確立するため、29年度から包括民間委託を導入。黒字確保により一般会計への繰り出しが可能となり、府の財政に貢献。 ○民間事業者をはじめ競輪選手など関係者が一丸となり、ファンサービスの見直しや、サイクルスポーツの拠点施設としての活動を実施。
7	政策企画部 企画総務課	自治体初！データサイエンティストの養成 ○全国初となる人工知能を活用したビッグデータの分析を自治体職員自らが業務として実施。未知の領域への挑戦による人材育成と事業遂行の相乗効果を創出。
8	政策企画部 企画統計課	データサイエンス時代における基盤整備～データが人を豊かにする社会を目指して～ ○「官民データ活用推進基本法」の施行に伴い、オープンデータ化とEBPM（証拠に基づく政策立案）が必要となり、過去25年分のデータのオープンデータ化に着手。 ○京都データストアへのデータの登録に際し、RPA（ロボットによる業務自動化）を活用したことにより、人手が必要な作業時間を大幅に縮減。
9	府民生活部 府民力推進課	イベントもシェアリングの時代へ「あすKyoフェスタ」×「共生社会」×「広報」で魅力アップ！ ○「あすのKyoto・地域創生フェスタ」で課題だった食事の提供に対し、ほっとはあとセンターと連携して障害者施設によるパン販売と創作パンコンテストを実施。 ○受賞したパンには予約が殺到するなど、施設のモチベーションアップにつながったほか、府広報サイト「KYOTO SIDE」での紹介によりフェスタの知名度も向上。
10	文化スポーツ部 文化芸術振興課	京都アトラウンジ 京都の旦那衆とアーティストの出会いから次代の文化を創造 ○若手芸術家の活躍の場を広げるためには、展覧会だけでなく作品が売れる場が必要という新たな発想で、ゼロ予算で若手芸術家と企業経営者の交流会を試行的に実施。 ○芸術家と企業経営者の交流に加え、購入、作家への技術提供、商品取り扱いの申し出など、「旦那衆」とアーティストのプラットフォームが形成。
11	環境部 環境総務課 地球温暖化対策課	未来を担う将来世代への地球温暖化問題の訴求を実現！ ○京都議定書誕生20周年を機に「WE DO KYOTO!（環境にいいことしています）」を合言葉として、ユースサポーター（大学生）を任命し、環境啓発運動を展開。目標を上回る府民からのWDK!宣言を獲得。 ○また、「環境フェスティバル」では、こども環境絵画の展示や表彰式典の統合など、来場者数アップと業務効率化を実現。
12	商工労働観光部 産業労働総務課 文化学術研究都市推進課	府庁働き方改革CFT（クロス・ファンクショナル・チーム）の創設～府庁働き方Vision2030の実現に向けて～ ○若手職員を中心に組織横断的にチームを編成。若手職員がジブンゴトとして未来の府庁の働き方や働く環境を考え、「府庁働き方改革vision2030」を策定。 ○全職員を対象とした「働き方意識調査アンケート」の実施や、テレビ会議の利用促進ランチミーティングの開催等、働き方改革インフルエンサー活動を順次拡大。
13	健康福祉部 介護・地域福祉課	福祉職場のイメージを「くるり」と変える！ ○「きょうと福祉人材育成認証制度」の上位認証事業所は、離職率が低いなど、全国トップクラスの制度として国内外からの視察も多数。 ○介護・福祉業界の人材確保のため、上位認証事業所や京都ゆかりの音楽・映画関係者と協力し、メディア戦略によるイメージアップに取り組む。
14	健康福祉部 こども総合対策課	京都市保育人材キャリアパスモデルの策定 ○保育士の人材育成や職場定着のため、保育団体等によるワーキングチームを設置し、全国に先駆けて保育所現場に則したキャリアパスモデルを策定。 ○昇給やキャリア証明のためのキャリアパスポートを作成し、これまでのキャリアを引き継ぎ、再就職しやすい仕組みづくりを目指す。
15	建設交通部 港湾局港湾企画課 港湾局港湾施設課	即応力と総合力を発揮する港づくりへ！ ○京都舞鶴港の貨物取扱量の増加やクルーズ船寄港回数の急増を背景に、平成29年4月から本庁機能を舞鶴に移転し、港湾行政を一元化。 ○社会的影響の大きいヒアリ対応での迅速な意思決定に基づく対応や独自調査を実施するとともに、港湾施設の見学会では新たな企画や地域連携のもと、新組織を最大限に活かした取組を実施。